

# 国際関係概論 1

林 光

Thursday, April 12, 2007

## 0 はじめに

### 0.1 講義概要

国際関係論の最先端の理論に触れ、近現代史の知識を深めることに本講義の目的を据える。前期は安全保障分野と国際政治経済分野を対象に国際政治学の本理論を学ぶ。後期はほぼ時系列的に世界の近現代史を概観し、理論の生まれてきた背景をふりかえる。

### 0.2 授業計画

#### 前期

1. 戦争の発生 1：第一イメージ
2. 戦争の発生 2：第二イメージ
3. 戦争の発生 3：第三イメージ
4. 戦争の発生 4：情報不完備性
5. 戦争の発生 5：時間不整合性
6. 戦争の発生 6：争点不可分性
7. 戦争の終結
8. 戦争の抑止
9. 戦争の手段
10. 制度の発生
11. 制度の進化 1：貿易
12. 制度の進化 2：金融
13. 制度の進化 3：環境 etc.

#### 後期 (一テーマを二回にほどに分割の予定)

1. 前近代の戦争
2. 近代の戦争
3. 勢力均衡と第一次世界大戦
4. 集団安全保障と第二次世界大戦
5. 冷戦：核抑止と代理戦争
6. 冷戦後：民族紛争と介入
7. グローバリゼーションと相互依存
8. 情報革命と非国家主体

### 0.3 成績評価方法

試験もしくは数回のレポート提出により評価する。初回に受講者と協議の上決定する。レポートの場合は、数回提出物を課し、その内容・形式で評価する。その際一定水準に達するまで再提出を繰り返し求めるので心してほしい。

受講者の出欠は、小テストもしくは講義中の指名などを通じて確認する予定であるが、基本として出欠と成績評価は連動させない(減点材料にしない)。例外は成績評価の際の「不可」に対する救済措置(加点材料)としてである。講義への出席は強制ではないので、より有意義な時間の使い方であると各自が判断すれば、(あくまで自己責任で)そちらを優先させて構わない。反面、講義中の私語など他人の集中力をそぐ行為は厳に慎むこと。

### 0.4 その他

一方通行の知識の押し付けではなく、対話形式を取り入れる。授業中は適宜学生を指名し、自力で考える習慣をつけてもらう。

### 0.5 教科書・参考文献

教科書は特に指定しないが、以下を参考文献とする。

- 『アクセス安全保障論』(日本経済評論社)
- 『国際紛争 理論と歴史』(有斐閣)

その他、参考になるかもしれない文献を挙げておく。

- 『アクセス国際政治経済論』(日本経済評論社)
- 『国際関係』(東大出版会)
- 『現代国際関係学』(有斐閣)
- 『国際関係理論』(勁草書房)

## 1 戦争の発生 1 : 第一イメージ

"Where are the major causes of war to be found?"

A1 "Within man"

A2 "Within the structure of the separate states"

A3 "Within the state system"

A1 人間の心 / 本性が戦争の原因! ex ユネスコ憲章<sup>1</sup>  
教育 / 啓蒙が大切!

しかし「かけっこ負けるのはなぜ? 足が遅いから」  
では話にならない。

primary cause=human nature

secondary cause=暴力を抑止する制度の不在

それに「諸国民間の理解 平和」は怪しい。相  
互の理解が深まるほど相手が疎ましくなることも。

---

<sup>1</sup>That since wars begin in the minds of men, it is in the  
minds of men that the defenses of peace must be constructed;